

まえがき

戦後80年のいま、その前の50年間続けられた侵略戦争・帝国主義戦争の反省のもとにできた日本国憲法第9条を守ろうとする「9条の会」や、日本全国で50か所以上できた「憲法9条の碑」をつくる運動が各地で繰り広げられています。

これらの護憲運動では思想信条の違いはもとより、自衛隊や日米安保条約の是非についてなど、多様な意見と価値観を包摂して平和な日本と世界を求める取り組みがなされており、時には護憲派とは異なる人を招いての討論会も開催されたりしています。

本書では、今年2025年に開催された各地の催しの中から、4人の講師の講演をまとめました。

昭和史を中心に多くの著書で歴史研究を著わしているノンフィクション作家・評論家の保阪正康さん、ウクライナ戦争などロシアの安全保障問題に詳しい軍事アナリストの小泉悠さん、9条の碑の意義を全国に広めているジャーナリストの伊藤千尋さん、9条の碑を地元の長野県

川中島町で住民とともに建立した元防衛大臣の北澤俊美さん。この4人の方の見識から、歴史とリアリズム、運動と理想など多面的に9条と平和について考える参考にしていただくために上梓しました。

あけび書房代表 岡林信一

戦後80年に憲法9条の意義を考える——歴史、防衛、運動から ●もくじ

まえがき…³

“常識”の復権を——昭和100年、私たちは何を語り継ぐべきか…⁴

保阪 正康

九条の会で再び憲法について議論する…⁴⁷

小泉 悠

広がる「九条の碑」建設と平和への願い…⁷⁷

伊藤 千尋

防衛大臣として考えた9条と日本の平和…⁹⁹

北澤 俊美